

ならちゅうしん経営研究会 例会報告

第 319 回 研究会 （新春セミナー）

- ◆日 時 平成 30 年 1 月 17 日 （水曜日）
- ◆場 所 榎原ロイヤルホテル
- ◆講 師 落語家 笑福亭 智之介さん
- ◆内 容 第一部 講演・マジックショー
「技の手品・噺の手品」
第二部 落語
「池田の牛ほめ(普請ほめ)」
新年会(懇親会)

今回の新春セミナーは、落語家の笑福亭智之介さんを迎え、開催しました。

最初に上田会長より、「いまAI（人工知能）などで社会が変わりつつあるが、変化の時はビジネスチャンスがある。今日は笑って活力を養ってほしい。」と新年のご挨拶があり、新春セミナーを開講しました。

今回の講師としてお迎えした笑福亭智之介さんは、兵庫県神戸市のご出身で、昭和52年12月お生まれの40歳です。少年時代よりマジックに没頭され、マジシャンを目指すも大学時代に入部した落語研究会で落語の魅力にとりつかれ、落語の世界に入り、大学卒業後の平成12年、笑福亭仁智師匠に弟子入りし「智之介」を拝命されました。落語はもちろん、タキシードを着ての「マジシャン」としての舞台も浸透しつつあり、各方面で活躍されています。

第1部講演は、「技の手品・噺の手品」と題してお話を頂きました。小学生時代より始めたマジックと、大学で落語研究会に入部し学んだ落語の共通点などを説明頂き、落語、マジックとも、どこでも出来るのが強みとのことでした。



そして、コップやロープ、ハンカチ、リングなどの道具を使ったマジックに、計算結果を的中させるマジック、手のジェスチャーによるマジックなど、多彩な手品をご披露頂きました。マジックには上田会長、池田社長にもご協力頂き、参加者全員大いに楽しませて頂きました。

第2部は、上方落語の有名な演目である「池田の牛ほめ」(別名普請ほめ)を演じて頂きました。内容は、とにかく頓珍漢な言動ばかりで世間の感覚から万事ズレている息子に対して、兄が家を新築したと聞いて、父親が新築の家(普請)の褒め方をレクチャーしました。息子は父の教えをメモにとり、いざ伯父さんの家に普請を褒めに向いました。「表が総一面の梅造り(とがづくり)、内から入ると庭が縮緬漆喰(ちりめんじゅくい)、上り框(あがりがまち)が桜の三間半節無しの通り門、奥へ通ると・・・畳が備後表のヨリ縁(へり)、天井の良さが薩摩杉の鶉杓(うずらもく)そこから奥へ通ってみなはれ、奥へ通ると南天の床柱、萩の違い棚、黒柿の床框。こおいうところを見ますると、京の金閣寺が裸足で逃げそおな。こらつまり褒め言葉、洒落言葉やなあ・・・天角地眼一黒鹿頭耳小齒違(てんかくちもくびすいこくぜついちこくにしょうはちごう)」と難解な褒め文句を間違っって口上したり、メモを読みながら喋る滑稽な口調がとても面白い落語でした。新春より大爆笑のセミナーとなりました。



セミナーの後は、新年会としまして、懇親会を行い、新たにご加入頂きました5名の新規会員の皆様よりご挨拶を頂きました。